

氏名 大田 博  
学位の種類 博士（応用情報科学）  
学位記番号 博情第46号  
学位授与年月日 平成29年 9月27日  
学位授与の要件 学位規則第4条第1項該当（課程博士）  
論文題目 情報行動の視点を踏まえた看護師の継続教育に関する研究

論文審査委員 （主査）教授 西村治彦  
（副査）教授 石垣恭子  
（副査）教授 東ますみ

### 学位論文の要旨

近年、インターネットを中心とする情報通信技術（Information and Communication Technology：ICT）は、医療の分野にも大きな変化をもたらし、情報を取り扱う医療者にも影響を与えている。最近の医療者教育では、情報に対する関心の高まりから医療情報学をはじめとする学問領域の確立に向けた取り組みが活発になり、情報に関する科目教育（情報教育）の導入が行われるようになった。わが国では、多くの看護師養成機関が一般教養関連の科目として情報教育を行なうようになってきたが、看護師養成機関における体系的な情報教育の確立や、資格取得後のすべての看護師が医療情報学もしくは看護情報学教育を受けられる環境にあるとは言えず、看護師資格取得後の継続教育においても情報教育が十分に行われている状況とは言えない。看護師は、これまでも社会からの要請に応じるために継続教育を展開し、2010年度からは新人看護職員研修が法制度化され公的な支援体制も整備されるようになってきた。看護師の継続教育において、社会環境の変化は、継続教育の機会、学習ニーズの変化などに影響を及ぼす要因であり、ICTの普及や急速な情報化社会へ向かう現代社会の環境変化は、看護師の継続教育に影響していると考えられる。近年の継続教育では、e-learningをはじめとするICTベースの教育コンテンツの普及も見られ、今後は、これまでの看護師の継続教育のあり方では、ICTの普及した社会状況に対応した支援に限界が生じる可能性がある。看護師の継続教育では、看護師が主体的な情報の利活用を行うために、社会の変化に相応しながら、ICT等によってもたらされる情報に見合った行動が必要であり、組織や看護管理者は、看護師が能動的な学習行動を行えるように体系的に支援することが望まれる。

そこで、本研究では、ICTの普及や急速な情報化社会の変化が反映されやすい行動を説明する概念である情報行動に着目し、現代の看護師の継続教育における情報行動の構造的な関係を探るため、従来の看護師の継続教育において着目されて来なかった情報行動の視点を踏まえた看護師の継続教育の構成要因について検討した。さらに、情報行動の中心概念である情報探索行動に影響する個人特性や継続教育における学習行動の特性、環境特性を確認し、これらの結果に基づき今後の具体的な支援を行う際の留意点を示した。

第1章では、本研究の背景となるICTの普及による影響について、医療および看護師教育を概観し、看護師の継続教育における情報教育の視点の概要、研究の目的および本論文の構成を述べた。

第2章では、看護師の継続教育について用語の説明を行い、社会的背景について概観した。看護師の継続教育の背景では、新人看護職員研修の法制度化と訪問看護師の継続教育について詳細に述べた。そして、本論文で用いる主要な概念である、学習行動、情報行動と隣接する概念について述べた。

第3章では、看護師の継続教育の現状について、著者がこれまでに行った新人看護職員研修事業「医療機関受入研修事業」に関する研究と、訪問看護師の継続教育に関する文献調査について述べた。そして、看護師の継続教育の今後の課題として、看護師の継続教育においてICTがどのように影響しているのか、ICTを利用している看護師の特性など、情報行動の視点を踏まえた看護師の継続教育における学習行動を構成する要因や影響する要因を明らかにする必要があることを示した。

第4章では、情報行動の視点から看護師の継続教育を構成する要因を検討した。その結果、看護師の継続教育を構成する因子として「職場環境」「看護師としての自信」「キャリア形成への関心」「ICTを用いた情報活用」「人的サポート」「エンパワメント」の6因子が抽出され、「ICTを用いた情報活用」の能力が継続教育に関する行動に影響していることが確認できた。

第5章では、看護師の継続教育における情報探索行動に影響する要因を、個人特性、継続教育要因およびインターネット環境要因の視点で検討した。その結果、実践において多くの課題に直面する機会を有している認定看護師や専門看護師の情報探索の機会が増えていることがわかった。これは、常勤看護師、師長や施設監督管理者においても同様な結果が見られ、職務上の課題や問題に遭遇する機会が多く、情報探索の機会が増えていると推察された。このことから、看護師は、情報探索に関する教育ニーズが潜在的にあることがわかり、看護師に対する情報教育の重要性が示唆された。情報教育では、情報の利活用の実地的な経験を有する看護師が、他の看護師や組織に対して教育的役割を担うことに期待できると考えられた。また、看護基礎教育課程における情報関連の教育を受けた経験や電

子文献データベース利用環境が、情報探索行動に影響を与えていることが明らかになり、情報の利活用に関する知識や技能は、看護師の職務やキャリア形成上においても重要であり、継続教育では、情報探索行動を汎用的なスキルであると捉えた環境整備が重要であることが示された。

第6章では、本研究のまとめを述べ、本研究で得られた知見から今後の看護師の継続教育の体系的な支援における留意点として、情報行動は、すべての看護師に必要な普遍的な問題解決能力であること、汎用的スキルであること、潜在的な情報ニーズに留意すること、の3つが導かれた。そして今後の課題として、本研究で得られた知見に基づき、教育カリキュラムの策定、実地における検証を進めることが重要であると考えている。

## 論文審査の結果の要旨

本研究では、看護師の継続教育についての現状分析を行い、その課題を明らかにしたうえで、ICTの普及や急速な情報化が進む社会の変化に対応した新たな支援を行うためには、看護師の継続教育における情報行動の構造的な関係を探り、看護師の継続教育における情報行動の位置付けを確認することの必要性を提言している。また、情報行動の中心概念である情報探索行動に着目し、実地で勤務する看護師のデータを用い、個人特性、継続教育要因及びインターネット環境要因の視点から検討することの重要性についても提言され、これらについての調査及び分析の結果が展開されている。

具体的には第2章では、看護師の継続教育の社会的背景、関連する諸概念についての確な概観がなされ、本研究における主要な用語について説明されている。第3章では、看護師の継続教育の現状についての分析として、著者がこれまでに実施した看護師の継続教育の現状について、2010年度より開始された新人看護職員研修事業のうち「医療機関受入研修事業」と訪問看護師の継続教育について着目し、看護師の継続教育の課題を明らかにしている。

続く第4章では、ICTが普及し急速に情報化が進む社会の変化が、看護師の継続教育においてどのように影響しているのか、ICTの利用を含めた情報行動の視点から看護師の継続教育を構成する要因について、実地の看護師のデータを用いた探索的因子分析の結果から、「職場環境」「看護師としての自信」「キャリア形成への関心」「ICTを用いた情報活用」「人的サポート」「エンパワメント」の6因子を抽出し、「ICTを用いた情報活用」の能力が継続教育に関する行動に影響していることを実証している。

さらに第5章では、看護師の継続教育における情報探索行動に影響する要因を、個人特性、継続教育要因及びインターネット環境要因の視点で検討し、実地で勤務する看護師のデータを用いた分析の結果から、実践において多くの課題に直面する機会を有している認定看護師や専門看護師の情報探索の機会が増えていることが確認されている。

以上を通して、本研究において、情報行動が看護師の継続教育に大きく影響していることが実地調査で明らかにされたことは、今後の看護師の継続教育における情報教育に関する議論の推進や教育カリキュラムの設計に向けた有用な資料となり得るとともに、今後の取り組みの先駆的な存在となるものと期待される。情報行動は、全ての看護師に必要な問題解決行動であり、職務やキャリア形成において重要な能力であるとの認識に立って、本研究で得られた知見に基づき、教育カリキュラムの策定と実地における検証を進めることが可能になると認められる。

以上を総合して本審査委員会は、本論文が「博士(応用情報科学)」の学位論文に値するものと全員一致で判定した。